

イネ苗立枯病の耕種的対策－プール育苗－

農業試験場

イネの育苗期には様々な病原菌によって苗が枯れる苗立枯病が発生しますが、県内ではピシウム属菌による苗立枯病が問題となっています。イネが健全に生育していると、たとえ病原菌が存在しても発病することは少ないのですが、イネの活力が低下した条件で感染すると大きな被害になります。3月から5月にかけての育苗期間は天候が不安定で、強い寒波が何度もやってきますが、この低温は稲の苗にとって大きなストレスになるため、苗立枯病の主な発生助長要因になっています。

近年、育苗時の水管理が容易なことから、水を張った枠内で苗を管理するプール育苗が広がりつつあります。そこで、プール育苗と苗立枯病の発生の関係を調べてみました。プール育苗でも苗立枯病の病原菌に感染しますが、発病の程度は軽く、生育不良程度に留まります。慣行育苗のように枯れることは少なく、被害を抑える効果が高いことがわかりました。多くの病原菌は水中で活動が抑制されることや、水分が豊富にあるため萎凋に至りにくいことが、プール育苗で苗立枯病の被害が少ない要因と考えられます。

一般に苗立枯病の防除対策として土壌消毒（農薬の培土への混和や灌注）を行っていますが、プール育苗は土壌消毒を省くことができることから、減農薬栽培の一手段としても広がっています。



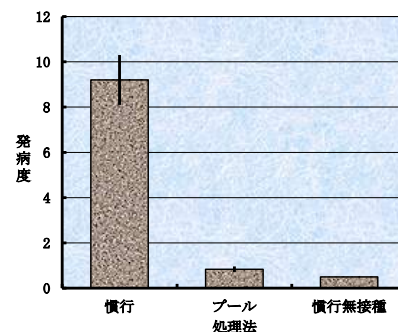
苗立枯病が発生した苗



プール育苗



苗立枯病の病原菌（ピシウム）



プール育苗の苗立枯病に対する効果

担当者	山下 亨	電話番号	0 2 6 - 2 4 6 - 2 4 1 1
-----	------	------	-------------------------

[試験場だより・知って納得情報へ](#)

[農業試験場ホームページへ](#)